

1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告（2015年4月～2016年3月）

副島 健治

バハウ・サイモン・ピーター

1 はじめに

富山大学留学生センター（1999年4月1日設置）が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活に関わる指導だけでなく、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すなど、センターの機能と役割が拡大した意味合いを持つように位置付けられた。

本報では2015年4月～2016年3月において、日本語教育以外に関わる本センターの主な業務について報告する。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言および、富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と水曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。

受けた相談件数：115件

内訳：外国人留学生に対する指導・助言（45件）、日本人学生に対する指導・助言（55件）、

その他（富山大学教職員、卒業生、地域住民等からの相談）（15件）

海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学にかかる相談にのっている。のべ面談回数は204回であった。

相談における主な希望留学先は、カナダ、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド等の英語圏諸国、ロシア、スイス、フランス、ドイツ、フィンランドなどであった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：55人

（内訳）人文学部（25人）、人間発達科学部（8人）、経済学部（14人）、理学部（3人）、

工学部（3人）、理工学教育部（2人）

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) 「日本事情」教育

日本語研修コース「日本事情」の授業に、受講する留学生の他に留学生の先輩や日本人学生にもサポートに入ってもらい、合同授業を行った。この授業は、教師を含む授業参加者相互の対話型（インターアクティブ）の形態をとり、留学生自身のまなざしを通して、日本の文化と日本以外の国の文化との異なる点および類似性の両方を認識するとともに、留学生がそれを理解し、日本（富山）での学修や生活に活かしていけるようにすることが目的である。また、その授業を進める経緯の中で日本人学生のサポートもあって、留学生の日本語学習自体も促進されていくという副産物も期待される。

また、富山大学の学生の海外留学にかかる支援の一環として、「日本事情」受講の留学生と、海外留学を目指して準備している日本人学生の合同授業を行ない、日本や留学生の出身国・地域の事情などに

ついて、日本語と英語で交流・交換する授業が実現した。成果としては、双方にとっても有意義な経験となったことである。今後もこの取り組みは、学内における1つの国際交流と異文化理解促進の活動として継続していきたい。

(2) スタディ・エクスカージョン

毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流を目的として、近隣の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンを実施している。

・前期のスタディ・エクスカージョン

<実施日・見学場所>

2015年6月19日(金) 天気：曇天(小雨)

五百羅漢・富山市民俗民芸村

移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生 6人

日本人学生 4人

教職員 5人

合計：15人



(2015年6月19日(金) 民俗民芸村にて)

・後期のスタディ・エクスカージョン

<実施日・見学場所>

2015年11月20日(金) 天気：快晴

新湊きっときと市場、新湊かまぼこ夢テラス海王、
海王丸パーク、新湊大橋(あいの風プロムナード)

移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生 22人

日本人学生 4人

教職員 9人

合計：35人



(2015年11月20日(金) 新湊大橋にて)

スタディ・エクスカージョン後にアンケートを実施した。アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多かった。「不満」と答えた者はゼロであった。参加学生の満足感はたいへん高くこの企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。また「見学時間をもっと長くしてほしい」などの改善を求める意見もあった。

(3) ホームビジットとホームステイ

センターの日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験をさせるために、ホームビジット(日帰り)またはホームステイ(1泊2日)を実施している。例年、ホームビジットは富山市民国際交流協会(以下、「TCA」とする。)の協力と斡旋、ホームステイは公益財団法人とやま国際センター(以下、「TIC」とする。)の協力と斡旋により実現しているが、本年度は、昨年度に引き続き元富山県婦翔会のメンバーからも協力いただいた。また今年度は高岡市国際交流協会にもホストファミリーの斡旋の協力をいただいた。

ホームビジットまたはホームステイのいずれかを体験するかは日本語研修コースに所属する留学生の希望に基づいている。2015年度は、前期は全員がホームステイを希望し、後期は5人がホームステイ、1人がホームビジットを希望した。

ホームステイの実施に当たっては、その事前指導と事後指導も行った。プログラム終了後、学生は活動報告書を提出するとともに、ホストファミリーにお礼の手紙を書いた。

実施日・参加者数

前期のホームステイ

<日時・参加者数>

2015年6月13日(土)～14日(日) [1泊2日] 6人(日本語研修コース32期生)

事前指導：6月8日(月) 15:15 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

事後指導：6月15日(月) 15:15 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

後期のホームステイ

<日時・参加者数>

2015年12月5日(土)～6日(日) [1泊2日] 4人※(日本語研修コース33期生)

※ ホームステイを希望していた5人のうち1人は病気のため参加を中止した。

後期のホームビジット

<日時・参加者数>

2015年12月5日(土) 1人(同上)

事前指導：11月30日(月) 15:15 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

事後指導：12月7日(月) 15:00 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

(4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。

加えて、大学の学生サークル「パートナーズ」(後掲)が外国人留学生と日本人学生の交流を目的として、下のような「交流会」を企画し実施した。

<日時・参加者数>

2015年8月7日(金) 15:30～17:30 International Friendship Party 参加人数：28人

2015年10月28日(水) 15:30～17:30 ウェルカムパーティ 参加人数：28人

2015年12月18日(金) 15:30～17:30 Year-End Party 参加人数：30人

2016年2月3日(水) 15:30～17:30 Farewell Party 参加人数：35人

4 関係団体との協力と連携

(1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成27年度センター教員が直接参加、協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
SGH 3年人文社会科学科英語ゼミ特別講座	5月25日(月) 6月22日(月)	富山県立高岡高校	ゼミ講師
富山ライオンズクラブ例会での講演	5月26日(火)	富山ライオンズクラブ	卓話講演
ルンビニ園児との田植え体験	6月6日(日)	富山ライオンズクラブ	参加
平成27年度富山市民大学講座	7月10日(金)	富山市教育委員会	講師
カンボジア国研修生との交流行事	9月1日(火)	富山県カンボジア協会	参加
パプアニューギニア理解講演会	9月6日(日)	富山県青年国際交流機構	講演
ルンビニ園児との稲刈り体験	10月24日(日)	富山ライオンズクラブ	参加
富山市立富山外国専門学校講演会	11月2日(土)	富山外国専門学校	講演
国際フェスティバル	11月8日(日)	富山市国際交流協会	参加
新年交流会	2016年 1月17日(日)	富山市民国際交流協会	参加
北陸新幹線開通1周年記念行事	3月13日(日)	富山県、富山県ルマニア協会(共催)	講演

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「平成27年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 自治体等との連携

国際交流センターと関係諸団体との連携と協力関係はたいへん重要であり、そのような意味において、必要に応じて情報交換している。2015年度は今後の協力関係をさらに構築するため以下の機関を訪問し、富山大学国際交流センターの説明、意見・情報交換、相互協力の依頼等を行った。

2015年5月12日(火)	14:00	高岡市国際交流協会、高岡フィンランド協会
2015年6月29日(月)	13:00	南砺市友好交流協会
2015年9月18日(金)	15:00	呉羽青少年自然の家
2016年2月19日(金)	10:00	滑川市役所企画政策課
同日	13:00	魚津市役所地域協働課
2016年2月24日(水)	11:00	黒部市役所企画政策課
同日	15:00	入善町役場企画財政課(教育委員会)

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留學生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内をセンターの談話室に掲示している。

6 外国からのセンター訪問

国際交流センターに以下(非公式なものを除く)のような外国からの訪問があり、意見・情報交換等を行った。訪問者がセンター教員の授業を見学することもあった。

2015年4月27日(月)	14:00	アメリカ、ハワイ大学マウイカレッジより(2名) ロリ テラガワチ氏(生涯及び継続教育/訓練局 局長)
---------------	-------	---

ペドロ フェインノート氏 (マウイ言語インスティテュート プログラムコーディネーター)
 2015年6月1日(月) 14:30 アメリカ, マーレイ州立大学 より
 ジェイミー ブース氏 (留学アドバイザー)
 2015年6月3日(水) 14:00 アメリカ, ハワイ大学マウイカレッジより
 ラップ ミヤノ カズコ氏 (日本語講師)
 2015年8月6日(木) 9:00 エジプト, カイロ大学より
 アハマド ファトヒー氏 (文学部教授)
 2015年11月12日(木) 9:00 ニュージーランド, ユニテック工科大学より
 ニック シャックルフォード氏 (言語学部 学部長)
 2016年2月8日(月) 9:00 エジプト, カイロ大学より
 アハマド ファトヒー氏 (前出)
 2016年3月11日(金) 9:00 ニュージーランド, ユニテック工科大学より (3名)
 ニック シャックルフォード氏 (前出)
 ジェームズ ブロー氏 (国際部長)
 ブロウイン ワッツ氏 (留学・国際交流マネージャー)
 2016年3月25日(金) 9:00 オランダ, ライデン大学より
 山本絵美氏 (人文学部地域研究学院日本研究科講師)

7 オリエンテーション

(1) 学部新入留学生のためのオリエンテーション

学部教職員や学生支援グループ等の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、学部新入留学生を対象としたオリエンテーションを実施した。また、大学院生も希望すれば参加できることとした。

<実施日時・場所>

2015年4月3日(金) 9:30~13:45 富山大学学生会館2階 多目的利用室3~5

<参加者>

新入留学生: 19人

教職員 (国際交流センター教員, 学部教職員, 学務部職員 (留学支援チーム・学生支援チーム))

<オリエンテーションの主な内容>

・ガイダンス

- 1 授業料, 授業料免除, 奨学金等についての説明
 - 2 国際交流センターからの注意事項 (生活指導, 危機管理等)
 - 3 総合情報基盤センター, キャリアサポートセンター, 学生支援センターから説明
 - 4 学部教職員からの注意事項 (大学生活の心得, 除籍・懲戒・退学・休学, チューター制度, アルバイト等)
 - 5 キャンパスツアー
- ・懇親会 (昼食)

(2) 新規来日非正規生 (研究生, 科目等履修生, 特別聴講学生) のためのオリエンテーション

学部留学生 (正規生) のオリエンテーションとは別に, 研究生, 科目等履修生, 特別聴講学生を対象としたオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所・参加者数>

2015年4月15日(木) 12:20	共通教育棟4階A43教室	13人
2015年10月9日(水) 12:15	共通教育棟4階A33教室	38人

<オリエンテーションの主な内容>

- ・学内・学外における諸手続きについて
- ・学生生活について
- ・留意事項・危機管理について

(3) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために、時間割作成の支援として、学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2015年4月9日(木) 17:40~19:00 共通教育棟1階C11教室

<参加者数>

新入留学生 17人, 協力した先輩留学生 6人

8 講演会

国際交流センターでは、エジプトのカイロ大学からアハマドファトヒー博士を招聘して、2回の講演会を主催して開催した。第1回目は、海外留学を目指す日本人学生が聴講することを第一の目的にしていたので、それにちなんだ演題となっている。第2回目は、アハマド博士の専門的視点から日本文化を分かりやすく講演していただいた。講演後に行なった聴講者に対するアンケート結果によると、たいへん興味深く有意義な講演であったことが示されていた。

なお、第2回目の講演内容をまとめたものを本誌に寄稿いただいている。

第1回 国際交流センター主催講演会

<講演者>

アハマド ファトヒー (カイロ大学文学部教授)

<演題>

“日本留学体験を通して大発見～日本人の国民性とエジプト人の国民性の違い～”

<日時・場所>

日時：2015年8月5日(水) 9:30 受付 10:00~11:30

場所：共通教育棟4階 A43教室

第2回 国際交流センター主催講演会

<講演者>

アハマド ファトヒー (カイロ大学文学部教授)

<演題>

“日本・エジプト大衆文化 中世の語り物文芸”

<日時・場所>

2016年2月10日(水) 12:30 開場 13:00~15:00

場所：共通教育棟2階 C21教室

第1回講演会 ポスター・チラシ

第2回講演会 ポスター・チラシ

第二回目の講演会では、講演に引き続いて「元留学生によるパネル対談」としてパネルディスカッションも行った。

パネルディスカッション

<実施日・場所>

2016年2月10日(水) 15:00~15:30 (講演に引き続き実施)

テーマ：“日本留学を巡って”

パネラー：アハマド ファトヒー (カイロ大学文学部教授)

バハウ サイモン ピーター (富山大学国際交流センター教授)

司会：副島健治 (富山大学国際交流センター教授)

9 日本人学生の留学に関する啓発の活動

国際交流センター主催夏季セミナー

富山大学の学生の海外への留学の促進のため、2回の国際交流センター主催のセミナーを実施した。対象はいずれも、海外留学を目指している富山大学の学生である。

第1回目は、海外留学をした場合、日本人としてのアイデンティティを問われる場面も少なくないことから、留学を目指す学生のための「日本語・日本事情」講座とした。セミナーの二日目には、富山大学で学ぶ留学生に海外留学を目指す学生への「応援スピーチ」をしてもらった。セミナー最終日は、受講生に前出のセンター主催講演会も聴講させた。また、同じく最終日には国際交流センター日本語研修コースで学ぶ留学生のスピーチ発表会が行われていたため、それも聞きに行くように指導した。加えて、セミナー1日目と2日目の昼休みに、ランチミーティング形式の「留学相談」(希望者のみ)を行った。

第2回目のセミナーは、留学先として英語圏を選択する学が多いことから、留学を目指す学生のための英語学習について考え学ぶ「留学を目指す学生のための「留学準備の英語」講座」とした。

いずれも夏季集中セミナーの形で実施し、受講者で条件を満たした者にはセンター長名で受講証明書(Certificate)を発行した。



第1回セミナー風景(1日目)

第一回 国際交流センター主催 夏季セミナー “留学を目指す学生のための「日本語・日本事情」講座”

<実施日・場所>

2015年8月3日(月)~8月5日(水) 3日間

共通教育棟 A43 教室

<講師・テーマ>

講師：近藤隆 (医学部教授, センター長) … “NIH 留学で学んだもの”

橋爪和夫 (人間発達科学部教授, 副センター長)

バハウ サイモン ピーター (国際交流センター専任教員)

} … “「日本の文化」について考える。”

副島健治 (国際交流センター専任教員, 副センター長) … “日本語ってどんな言語?”

小木曾左枝子 (国際交流センター専任教員) … “「日本語を教える」実践講座~英語で日本語を説明する”

<富山大学で学ぶ外国人留学生による応援スピーチ>

スピーカー：エルデネバートル オユーンハンド (富山大学工学部4年 モンゴル出身)

スピーチのテーマ：“お互いに学びましょう”

<留学相談>

以下の教員が担当した。

バハウ サイモン ピーター：留学相談A (学部生交換留学, 短期語学, 研修留学, 留学全般の相談)
 小木曾左枝子：留学相談B (学部卒業後の進学先としての大学院留学の相談)

第二回 国際交流センター主催 夏季セミナー「留学を目指す学生のための「留学準備の英語」講座」

<実施日・場所>

2015年8月19日(水)～8月21日(金) 3日間

共通教育棟A43教室

<講師・テーマ>

講師：バハウ サイモン ピーター (国際交流センター専任教員)

国際交流センター主催 2015 Summer Intensive Seminar
留学を目指す学生のための「日本語・日本事情」講座
 "Japanese Language & Japanese Affairs" Seminar for Students Aiming at Study-Aboard

Q. あなたはこれにどう答えますか?
 日本語って難しいの? 「日本語は英語で教えます!」
 「すみません!」 「どうして?」
 「私が学生です。」 「何を勉強するの?」
 「何を勉強するの?」 「何を勉強するの?」

留学の準備として、外国語習得は重要ですが、それだけでなく、学歴も重要です。留学先で、日本語や日本文化について聞かれたり、時には「日本語を教えます!」と頼まれたりすることもありません。そんなとき、あなたはどのように答えますか? 問題は、英語が得意なことではないと信じないでください。今回の講座は、そのような事を思いいつ、留学準備の一環として受講するものです。留学を目指している皆さん、ぜひ参加してみてください。

(1) 期間、内容、担当教員	8月3日(月)	8月4日(火)	8月5日(水)
10:00-12:00	N1H留学で学んだもの 国際交流センター-長 近藤 敬	英語講座 「英語に学ばせよう」 《本学で学ぶ学生より》 「日本語を教えます」 英語講座-英語で日本語を説明 する 国際交流センター 小木曾左枝子 敬教	「日本事情を通して」 大槻、日本人の国民性とエジ プト人の国民性の違い カイロ大学教授 アハド博士 Clonier
12:00-13:00	ランチミーティング形式 留学相談(希望者) 国際交流センター バハウ サイモン ピーター 敬教	ランチミーティング形式 留学相談(希望者) 国際交流センター 小木曾左枝子 敬教	
13:00-15:00	「日本の文化」について考 える 国際交流センター-長 近藤 敬 国際交流センター バハウ サイモン ピーター 敬教	留学相談-学 生と教員 国際交流 センター 国際交流 センター バハウ サイモン ピーター 敬教	国際交流センター-長 近藤 敬 国際交流 センター バハウ サイモン ピーター 敬教

(2) 対象 : 海外留学を目指す富山大学の学生
 (3) 場 所 : 共通教育棟A43教室
 (4) 問合せ先・受講申込 : 国際交流センターホームページ内<http://www.ier.u-torima.ac.jp/>にて
 受講申込書をダウンロードし、記入後下記メールアドレスに提出して下さい。
 提出先 : ier@ier.u-torima.ac.jp
 問合せ先 : 国際交流センター事務局 076-445-6106
 (5) 受講申込締め切り : 7月27日(月) 15:00まで
 ※セミナーは定員を超過するものではありません。
 ※講師の都合により変更する場合があります。必ず当日の案内を必ずご確認ください。
 ※申し込みの都合により、受講申込後にキャンセルする場合は必ず事前にご連絡ください。
 ※受講料は全額を国際交流センターが負担いたします。

第1回セミナー ポスター・チラシ

国際交流センター主催
留学を目指す学生のための「留学準備の英語」講座
English Seminar for Students Aiming at Study-Aboard
 Conducted by CIER

これは、留学を本気で目指している富山大学の学生のための英語学習について考え学ぶ講座です。(単に英語の力をつけたいという目的の方はご遠慮ください。) 難易度をよく理解した上で申し込んでください。この講座ではみなさんの英語力は問いません。今のあなたの英語力、そこからスタート地点です。何も恐れる必要はありません。あなた自身も自覚しているように、留学したいという強い意志こそ最も重要であり、このセミナーへの参加しようとする動機であり、それがなければ支援できません。そのことを自分自身で確認してください。CIERの門を叩いて下さい。そしてあなたのゴールを一緒に目指せるようにしましょう。留学を本気で考えているあなたに会うのを楽しみにしています。

This is a seminar for those students who are seriously considering study-abroad. The English language skills required for study-abroad will be focused in preparation for study abroad. As such, those students only wanting to upgrade their English language skills should refrain from applying. Kindly understand the theme and purpose of the seminar before making an attempt. Students intending participate should not worry about their level of English Language! As you may know very well, the important thing here is actually your motive and drive for wanting to study abroad. Please feel free to come by the Center (CIER) so we can talk about it and together work towards realizing your goal. We look forward to seeing you around.

(1) 期間、内容	8月19日(水)	8月20日(木)	8月21日(金)
10:00-12:00	Opening イントロダクション Introduction 留学準備としての英語(1) Study Abroad Preparatory English 1	留学準備としての英語(2) Study Abroad Preparatory English 2	留学準備としての英語(3) Study Abroad Preparatory English 3 Closing

(2) 講 師 : 富山大学国際交流センター バハウ サイモン ピーター 敬教
 (3) 対 象 : 海外留学を目指す富山大学の学生
 (4) 場 所 : 共通教育棟A43教室
 (5) 問合せ先・受講申込 : 国際交流センターホームページ内<http://www.ier.u-torima.ac.jp/>にて
 受講申込書をダウンロードし、記入後下記メールアドレスに提出して下さい。
 提出先 : ier@ier.u-torima.ac.jp
 問合せ先 : 国際交流センター事務局 076-445-6106
 ※セミナーは定員を超過するものではありません。
 ※講師の都合により変更する場合があります。必ず当日の案内を必ずご確認ください。
 ※申し込みの都合により、受講申込後にキャンセルする場合は必ず事前にご連絡ください。
 ※受講料は全額を国際交流センターが負担いたします。

富山大学 国際交流センター Center for International Education and Research

第2回セミナー ポスター・チラシ

10 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体(名称「partners」)の活動への助言を行った。

(2) 平成27年度富山県留学生等交流推進会議総会・留学生との座談会への協力

以下のように、センターの専任教員が参加し「留学生との座談会」をコーディネートし参加留学生を指導した。

日時：2015年6月24日(水) 13:30～16:30 (座談会は15:30～16:30)

場所：富山大学富山大学五福キャンパス事務局5階大会議室

「留学生との座談会」のコーディネータ：バハウ サイモン ピーター (国際交流センター教員)

参加留学生：5人

(留学生内訳)	高岡法科大学 大学院法学研究科	1年	中国 (私費留学生)
	富山県立大学大学院工学研究科	2年	中国 (私費留学生)
	富山国際大学 現代社会学部	3年	ネパール (私費留学生)
	富山大学 人文学部	—	イタリア (交換留学生)
	富山大学 人間発達科学部	2年	マレーシア (私費留学生)

11 おわりに

富山大学には334人（2016年1月5日現在）の外国人留学生在籍している。海外から来た留学生たちが富山大学でより安心して留学生活を送ることができるように、本学の関係者をはじめとして、学外の自治体等の諸団体、あるいは地域の方々の暖かい理解と協力、多大な支援を頂いている。そのことについて、まずはこの誌面をかりて感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターは発展的に解消し、国際交流センターとなって、従来の外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学上および生活上の指導助言などを行うという役割だけでなく、さらには外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生の海外への送り出しなど、その役割は拡大した意味合いを持つように位置付けられた。センターの教員、スタッフに課せられたミッションは重いものであると認識すべきであろう。そのことを踏まえた上で、センターの教員とスタッフ全員がセンターの業務についての共通理解をはかり、富山大学の各部局および自治体をはじめとする地域との連携をはかりながら、一層の努力をしていくことが求められていると言える。